

(報告)資料No.2

Jリーグ報告

(1)リーグ戦

①順位

2013Jリーグ ディビジョン1 総得点:879 試合平均得点:2.87

順位	クラブ名	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	サンフレッチェ広島	63	34	19	6	9	51	29	+22
2	横浜F・マリノス	62	34	18	8	8	49	31	+18
3	川崎フロンターレ	60	34	18	6	10	65	51	+14
4	セレッソ大阪	59	34	16	11	7	53	32	+21
5	鹿島アントラーズ	59	34	18	5	11	60	52	+8
6	浦和レッズ	58	34	17	7	10	66	56	+10
7	アルビレックス新潟	55	34	17	4	13	48	42	+6
8	FC東京	54	34	16	6	12	61	47	+14
9	清水エスパルス	50	34	15	5	14	48	57	-9
10	柏レイソル	48	34	13	9	12	56	59	-3
11	名古屋グランパス	47	34	13	8	13	47	48	-1
12	サガン鳥栖	46	34	13	7	14	54	63	-9
13	ベガルタ仙台	45	34	11	12	11	41	38	+3
14	大宮アルディージャ	45	34	14	3	17	45	48	-3
15	ヴァンフォーレ甲府	37	34	8	13	13	30	41	-11
16	湘南ベルマーレ	25	34	6	7	21	34	62	-28
17	ジュビロ磐田	23	34	4	11	19	40	56	-16
18	大分トリニータ	14	34	2	8	24	31	67	-36

2013Jリーグ ディビジョン2 総得点:1212 試合平均得点:2.62

順位	クラブ名	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	ガンバ大阪	87	42	25	12	5	99	46	+53
2	ヴィッセル神戸	83	42	25	8	9	78	41	+37
3	京都サンガF.C.	70	42	20	10	12	68	46	+22
4	徳島ヴォルティス	67	42	20	7	15	56	51	+5
5	ジェフユナイテッド千葉	66	42	18	12	12	68	49	+19
6	V・ファーレン長崎	66	42	19	9	14	48	40	+8
7	松本山雅FC	66	42	19	9	14	54	54	+0
8	コンサドーレ札幌	64	42	20	4	18	60	49	+11
9	栃木SC	63	42	17	12	13	61	55	+6
10	モンテディオ山形	59	42	16	11	15	74	61	+13
11	横浜FC	58	42	15	13	14	49	46	+3
12	ファジアーノ岡山	56	42	13	17	12	52	48	+4
13	東京ヴェルディ	56	42	14	14	14	52	58	-6
14	アビスパ福岡	56	42	15	11	16	47	54	-7
15	水戸ホーリーホック	55	42	14	13	15	50	58	-8
16	ギラヴァンツ北九州	49	42	13	10	19	50	60	-10
17	愛媛FC	47	42	12	11	19	43	52	-9
18	カターレ富山	44	42	11	11	20	45	59	-14
19	ロアッソ熊本	43	42	10	13	19	40	70	-30
20	ザスパクサツ群馬	40	42	9	13	20	43	61	-18
21	FC岐阜	37	42	9	10	23	37	80	-43
22	ガイナレ鳥取	31	42	5	16	21	38	74	-36

② 入場者数

J1 (試合数 306)

(人)	平均比較	合計	平均
2013年度	-340	5,271,047	17,226
2012年度	-	5,375,300	17,566
前年比	98%		
2011年度	-	4,833,782	15,797
2011年度比	109%		

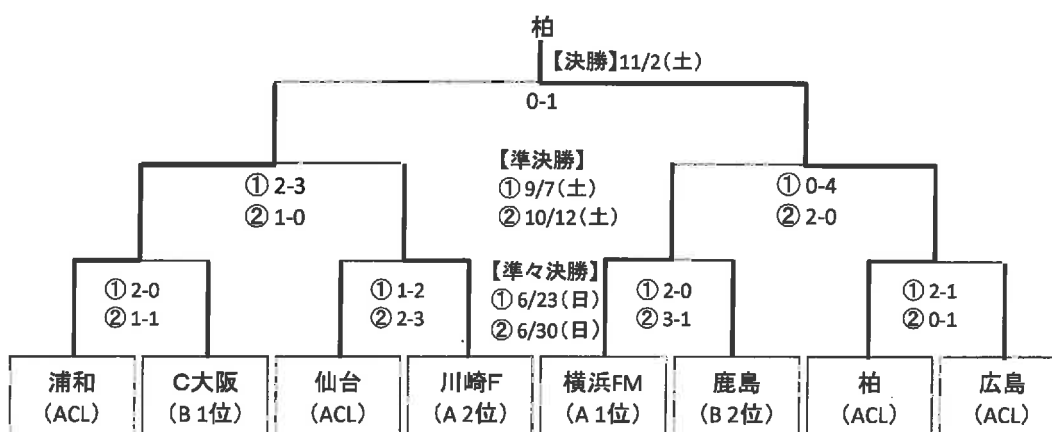
J2 (試合数 462)

(人)	平均比較	合計	平均
2013年度	+860	3,079,181	6,665
2012年度	-	2,681,881	5,805
前年比	115%		
2011年度	-	2,440,695	6,423
2011年度比	104%		

(2) リーグカップ戦

① 決勝トーナメント

2013 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ



② 入場者数

(人)	平均比較	合計	平均
2013年度	+447	516,684	9,394
2012年度	-	492,089	8,947
前年比	105%		
2011年度	-	292,190	10,822
2011年度比	87%		

(ご参考) 試合数

合計	予選リーグ*	決勝T
55	42	13
55	42	13
27	20	7

* 2011はトーナメント(震災により大会方式変更)

2013 J.LEAGUE™ AWARDS

受賞一覧

●最優秀選手賞 Player of the Year

出場・得点は2013JリーグJ1リーグ終了時/GKの得点欄()内数字は失点

ポジション	選手名	チーム名	生年月日	出生地	2013 J1		最優秀選手賞	過去の受賞
					出場	得点		
MF	中村 俊輔	Shunsuke Nakamura	1978/06/24	神奈川県	33	10	2	2回目(史上初):2000

※最優秀選手賞受賞が2回目となるのは史上初(前回受賞:2000シーズン)

(最優秀選手賞受賞回数は、今年を含む)

●ベストイレブン Best Eleven Players

ポジション	選手名	チーム名	生年月日	出生地	2013 J1		ベストイレブン	過去の受賞
					出場	得点		
GK	西川 周作	Shusaku NISHIKAWA	1986/06/18	大分県	33	(27)	2	2年連続2回目:2012
DF	那須 大亮	Daisuke NASU	1981/10/10	鹿児島県	32	9	初	
DF	森重 真人	Masato MORISHIGE	1987/05/21	広島県	33	1	初	
DF	中澤 佑二	Yuji NAKAZAWA	1978/02/25	埼玉県	34	1	6	6回目(歴代受賞3位タイ):1999(新人王)、2003、2004(MVP)、2005、2008
MF	中村 俊輔	Shunsuke Nakamura	1978/06/24	神奈川県	33	10	3	3回目:1999、2000(MVP)
MF	山口 瑩	Hotaru YAMAGUCHI	1990/10/06	三重県	34	6	初	
MF	柿谷 曜一朗	Yoichiro KAKITANI	1990/01/03	大阪府	34	21	初	
MF	青山 敏弘	Toshihiro AOYAMA	1986/02/22	岡山県	33	3	2	2年連続2回目:2012
FW	大迫 勇也	Yuya OSAKO	1990/05/18	鹿児島県	33	19	初	
FW	大久保 嘉人	Yoshito OKUBO	1982/06/09	福岡県	33	26	初	
FW	川又 堅基	Kengo KAWAMATA	1989/10/14	愛媛県	32	23	初	

(ベストイレブン受賞回数は、今年を含む)

●得点王 Top Scorer

ポジション	選手名	チーム名	生年月日	出生地	2013 J1		得点王
					出場	得点	
FW	大久保 嘉人	Yoshito OKUBO	1982/06/09	福岡県	33	26	初

※川崎フロンターレからの得点王受賞は2回目(2007:ジュニーニョ)

(得点王受賞回数は、今年を含む)

●ベストヤングプレーヤー賞 Best Young Player

ポジション	選手名	チーム名	生年月日	出生地	2013 J1	
					出場	得点
FW	南野 拓実	Takumi MINAMINO	1995/01/16	大阪府	29	5

●最優秀ゴール賞 Goal of the Year <新設>

ポジション	選手名	チーム名	生年月日	出生地	2013 J1		最優秀ゴール賞	過去の受賞
					出場	得点		
MF	柿谷 曜一朗	Yoichiro KAKITANI	1990/01/03	大阪府	34	21	初	*J1リーグ戦第33節(11/30開催) C大阪vs徳島(長居)38分 *月間ベストゴール受賞:2回(5月、11月)

●フェアプレー賞(高円宮杯) Fair Play Prize (Prince Takamado Cup)

サンフレッチェ広島	Sanfrecoce Hiroshima	2年連続3回目の受賞※歴代最多(2010、2012) ※フェアプレー特別賞 (1993、1994)
-----------	----------------------	---

●フェアプレー賞(J1) Fair Play Prize (J1)

ベガルタ仙台	Vegalta Sendai	J1での受賞は初 J2での受賞:2008、2009
--------	----------------	---------------------------

●フェアプレー賞(J2) Fair Play Prize (J2)

ガンバ大阪	Gamba Osaka	J2での受賞は初 J1での受賞:2008(フェアプレー賞)、2007・2011(高円宮杯)
松本山雅FC	Matsumoto Yamaga F.C.	初受賞
ヴィッセル神戸	Vissel Kobe	J2での受賞は初 Jリーグでの受賞:1997(高円宮杯)
ファジアーノ岡山	Fagiano Okayama	初受賞

●フェアプレー個人賞 Fair Play Prize (Individual)

ポジション	選手名	チーム名	生年月日	出生地	2013 J1		フェアプレー個人賞	過去の受賞
					出場	得点		
MF	柿谷 曜一朗	Yoichiro KAKITANI	1990/01/03	大阪府	34	21	初	
FW	佐藤 寿人	Hisato SATO	1982/03/12	埼玉県	34	17	3	3回目の受賞※歴代最多(2007、2012)

※ベストイレブン受賞選手がフェアプレー個人賞を同時受賞するのは4回目(2009:川島永嗣(川崎F)、2010:横野智章(広島)、2012:佐藤寿人(広島))*クラブ名は当時所属

※サンフレッチェ広島からのフェアプレー個人賞受賞は8回目(佐藤選手を含めて4名)/歴代最多

※佐藤寿人選手の3回目の受賞は歴代最多

2013 J.LEAGUE™ AWARDS

受賞一覧

●最優秀監督賞 Manager of the Year

監督名	チーム名	生年月日	最優秀回数	過去の受賞
森保 一 Hajime MORIYASU	サンフレッチェ広島	1968/08/23	2	2回目の受賞 (2012)

※1992.Jリーグヤマザキナビスコカップ以降、Jリーグ選手経験がある監督が、最優秀監督賞を受賞したのは3名のみ(2006:フットボール(浦和)、2010:ストイコビッチ(名古屋))
※いずれの監督も、選手として所属していたクラブでの優勝
※日本人監督の2年連続受賞は初

●最優秀主審賞 Referee of the Year

氏名	生年月日(出生地)	担当試合数				
		J1主審	J1副審	J2主審	J2副審	
西村 総一 Yuichi NISHIMURA	1972/04/17(東京都)	2013	16	0	6	0
5年連続 5度目の受賞(2009、2010、2011、2012)	国際主審	通算	190	15	75	14

●最優秀副審賞 Assistant Referee of the Year

氏名	生年月日(出生地)	担当試合数				
		J1主審	J1副審	J2主審	J2副審	
相樂 亨 Toru SAGARA	1976/06/25(栃木県)	2013	0	20	0	5
5年連続 6度目の受賞 ※歴代最多 (2007、2009、2010、2011、2012)	国際副審	通算	0	151	0	75

●Jリーグベストピッチ賞 J.LEAGUE Best Pitch

キンチョウスタジアム	KINCHO Stadium	9試合開催	2回目の受賞(2012)
IAIスタジアム日本平	IAI Stadium Nihondaira	16試合開催	6年連続 7度目の受賞 ※歴代最多 (2004、2008、2009、2010、2011、2012)
埼玉スタジアム2002	Saitama Stadium 2002	17試合開催	3回目の受賞(2005、2009)
東北電力ビッグスワンスタジアム	Tohoku Denryoku Big Swan Stadium	17試合開催	4回目の受賞(2007、2009、2012)

功労者表彰 Special Service Award

●功労選手賞

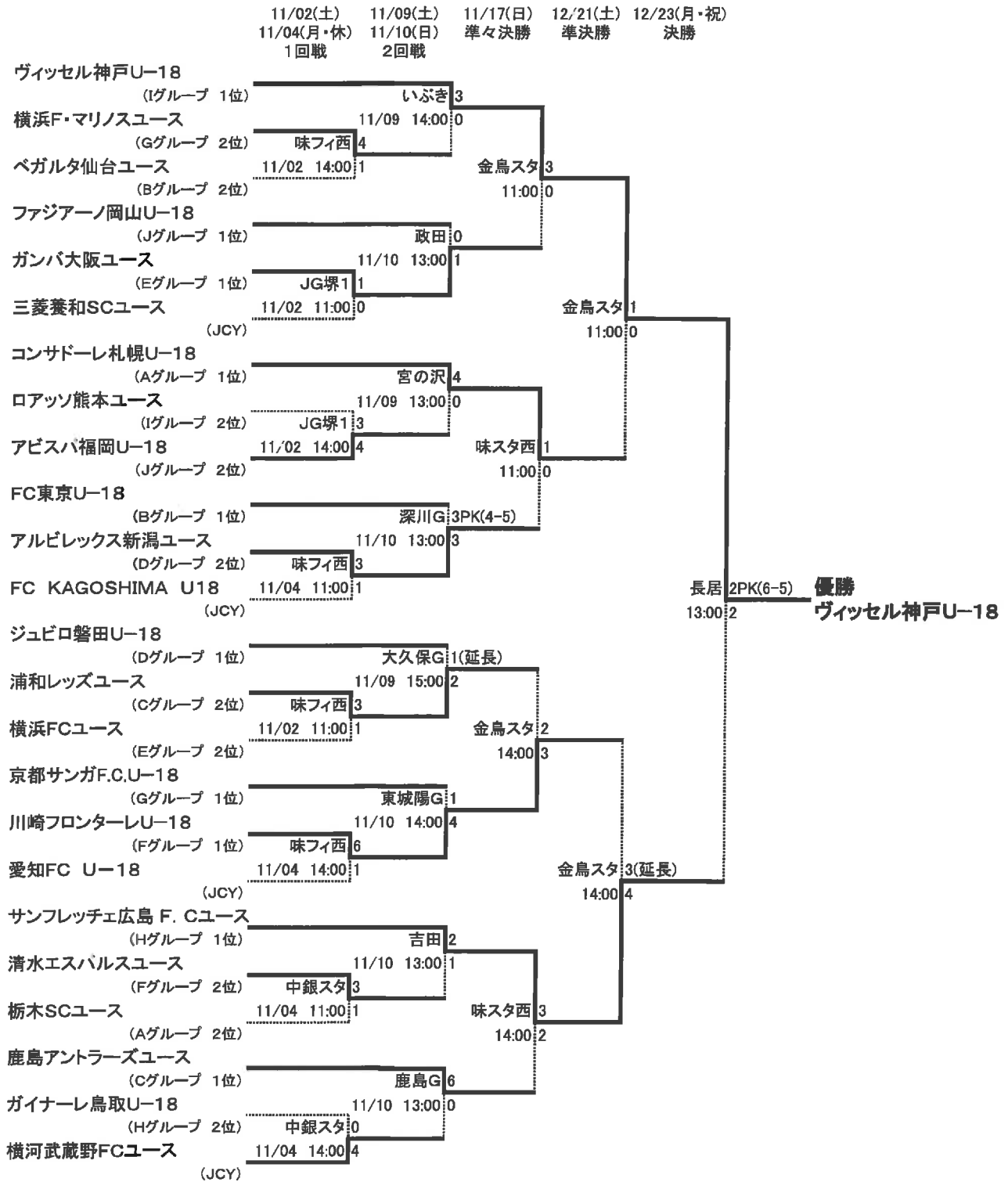
氏名	生年月日(出生地)	Jリーグ登録所属	J1出場	J1得点	J2出場	J2得点
中山 雅史 Masashi NAKAYAMA	1967/09/23(静岡県)	コンサドーレ札幌	355	157	12	0
土肥 洋一 Yoichi DOI	1973/07/25(熊本県)	東京ヴェルディ	341	0	97	0
服部 公太 Kota HATTORI	1977/11/22(千葉県)	ファジアーノ岡山	365	11	99	5

功労賞、功労審判員賞は該当者なし

●最優秀育成クラブ賞 Best Youth Scheme

セレッソ大阪	Cerezo Osaka
--------	--------------

(4) 2013ユースカップ (第21回Jリーグユース選手権大会)



(5) J3リーグ参加クラブ（2014シーズン）

2014シーズンのJ3リーグは、下記11クラブに特別参加枠チームを加えた12チームによるホーム&アウェイ方式の3回戦制(全33節)で行われることとなった。

記

グルージャ盛岡

法人名：いわてアスリートクラブ（代表取締役社長：臼井 康雄）

ホームタウン：盛岡市

ホームスタジアム：盛岡南公園球技場

2013シーズン成績：東北社会人リーグ1部優勝、全国地域リーグ決勝大会優勝

ブラウブリッツ秋田

法人名：秋田フットボールクラブ株式会社

（代表取締役会長：外山 純 取締役社長：岩瀬 浩介）

ホームタウン：秋田市、由利本荘市、にかほ市、男鹿市を中心とする全県

ホームスタジアム：秋田市八橋球技場

2013シーズン成績：第15回日本フットボールリーグ（JFL）8位

福島ユナイテッドFC

法人名：株式会社AC福島ユナイテッド（代表取締役：鈴木 勇人）

ホームタウン：福島市を中心とする全県

ホームスタジアム：とうほう・みんなのスタジアム（県営あづま陸上競技場）

2013シーズン成績：第15回日本フットボールリーグ（JFL）14位

FC町田ゼルビア

法人名：株式会社ゼルビア（代表取締役社長：下川 浩之）

ホームタウン：町田市

ホームスタジアム：町田市立陸上競技場

2013シーズン成績：第15回日本フットボールリーグ（JFL）4位

※2012シーズンにJ2に在籍。Jリーグへは再入会となる。

横浜スポーツ&カルチャークラブ（Y.S.C.C.横浜）

法人名：特定非営利活動法人横浜スポーツ&カルチャークラブ（理事長：吉野 次郎）

ホームタウン：横浜市

ホームスタジアム：ニッパツ三ツ沢球技場、三ツ沢公園陸上競技場

2013シーズン成績：第15回日本フットボールリーグ（JFL）12位

S C相模原

法人名：株式会社スポーツクラブ相模原（代表取締役：望月 重良）

ホームタウン：相模原市

ホームスタジアム：相模原麻溝公園競技場

2013 シーズン成績：第 15 回日本フットボールリーグ（JFL）3 位

A C長野パルセイロ

法人名：株式会社長野パルセイロ・アスレチッククラブ（代表取締役社長：丹羽 洋介）

ホームタウン：長野市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、

山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村、栄村

ホームスタジアム：佐久総合運動公園陸上競技場

（2014 シーズンのみ。2015 シーズンより南長野運動公園総合球技場）

2013 シーズン成績：第 15 回日本フットボールリーグ（JFL）優勝

ツエーゲン金沢

法人名：株式会社ツエーゲン（代表取締役社長：米沢 寛）

ホームタウン：金沢市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町を中心とする全県

ホームスタジアム：石川県西部緑地公園陸上競技場

2013 シーズン成績：第 15 回日本フットボールリーグ（JFL）7 位

藤枝MYFC

法人名：株式会社藤枝MYFC（代表取締役：小山 淳）

ホームタウン：藤枝市、島田市、焼津市、牧之原市、吉田町、川根本町

ホームスタジアム：藤枝総合運動公園サッカー場

2013 シーズン成績：第 15 回日本フットボールリーグ（JFL）13 位

ガイナレ鳥取

法人名：株式会社S C鳥取（代表取締役：塚野 真樹）

ホームタウン：鳥取市、米子市、倉吉市、境港市を中心とする全県

ホームスタジアム：とりぎんバードスタジアム

2013 シーズン成績：2013 Jリーグディビジョン2 22 位（J2 から降格）

FC琉球

法人名：琉球フットボールクラブ株式会社（代表取締役：下地 良）

ホームタウン：沖縄市を中心とする全県

ホームスタジアム：沖縄県総合運動公園陸上競技場、沖縄市陸上競技場

（沖縄市陸上競技場は 2014 シーズンのみ）

2013 シーズン成績：第 15 回日本フットボールリーグ（JFL）11 位

特別参加枠チーム

Jリーグ・アンダー22選抜

NEWS RELEASE

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

2013Jリーグ チェアマン総括

2013シーズンのJリーグは、リーグ戦開幕20周年という節目を迎えました。

2月23日に国立競技場で行われたFUJI XEROX SUPER CUP 2013におけるサンフレッチェ広島
の優勝で始まり、リーグ戦はJ1が同じくサンフレッチェ広島、J2は昨年クラブ史上初のJ2降格とな
ったガンバ大阪が優勝し、締めくくりました。

2013年のJリーグの総入場者数は9,165,092人となり、対前年比で約41万人の増となりました。年
度ごとにクラブ数や試合数が異なりますので一概に同列の比較はできませんが、この数字は2009年
の9,571,079人以来の歴代2位の数字です。特にJ1は、18クラブ中11クラブで1試合平均入場者数が
昨年を上回りました。J2はガンバ大阪のアウェイ試合において10試合でチケットが完売、トータルで
はチケット完売試合は対前年比プラス9試合で、合計40試合となりました。各地で多くのお客さまにス
タジアムまでお越しいただきましたが、地元クラブをはじめとする関係者の方々の日々の取り組みの積
み上げが、この数字に表れていると思います。この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。誠
に有難うございました。

今年のJリーグは、1993年の開幕以降、過去20年間に積み上げてきたものをあらためて検証しなが
ら、将来の成長のための戦略的な議論を重ねた一年となりました。2015年以降の大会方式を変更する
という改革案についての議論はメディアを通じて大きく報じられてきましたが、これはJリーグの価値を
さらに高め、より多くの皆さまに関心をもっていただくためのチャレンジであります。

さらに新たな取り組みとして、1999年の1・2部制導入から16年目となる来シーズン、J3がスタ
ートします。Jリーグが掲げる百年構想の具現化にまた大きな一歩を踏み出すこととなり、新たな仲間
の誕生に、それぞれの地元を中心に熱い夢を語り合った一年でもありました。

【リーグ戦、リーグカップ戦】

J1リーグ戦は、サンフレッチェ広島が最終節で横浜F・マリノスを逆転し、劇的に2連覇を決める
展開で幕を閉じました。今シーズンはディフェンディングチャンピオンとして追われる立場となり、昨
シーズンの得点王である佐藤寿人選手も厳しくマークされました。そのような状況でも、チームを率
いて2年目の森保一監督のもと、J1最少失点の堅守を基盤に粘り強く戦い、タイトルを守ったことは称
賛に値します。森崎和幸、森崎浩司、高萩洋次郎といった選手に続いて、若い野津田岳人選手なども活
躍し、アカデミー担当者の大きな自信にもなったことでしょう。反則ポイントも2年連続最少で昨年に
続きフェアプレー賞 高円宮杯を受賞し、結果とフェアプレーの両立を実現した戦いぶりは理想的ともい
えます。

横浜F・マリノスは最終節で優勝を逃したものの、今シーズンのMVPに輝いた中村俊輔選手が先頭

Jリーグトップパートナー

Calbee

Canon

KONAMI

AIDEM

Coca-Cola

McDonald's

JCB

に立って攻守に奮闘しました。Jリーグアウォーズの優秀選手賞32人のうち、実に10人が同クラブから選出されるなど、チーム一丸となって優勝を目指したプレーが多くの人たちの感動を呼びました。第33節のアルビレックス新潟戦でリーグ戦の最多記録を更新する62,632人の入場者を集めたことを含め、同クラブにおけるリーグ戦の平均入場者数で対前年比プラス4,550人を記録したことは、大都市をホームタウンとするクラブの潜在的な力を物語っています。

一方、若い選手の台頭でリーグ戦を盛り上げたのが、今シーズンは関西で唯一のJ1クラブだったセレッソ大阪です。柿谷曜一朗、山口 螢ら、アカデミー出身選手の才能が開花し、技術力の高い攻撃的なサッカーというスタイルを確立しつつあります。

Jリーグで3度の優勝歴を誇るジュビロ磐田の苦戦を、誰が予想できたでしょうか。前シーズンのガンバ大阪に続き、高いレベルを維持することの難しさを示した反面、Jリーグが20年の間に成熟し、それぞれのチーム力がきつ抗している証左といえます。

J2リーグ戦ではガンバ大阪、ヴィッセル神戸が前評判通りの力を発揮し、1年でのJ1復帰を実現。J1昇格プレーオフを制した徳島ヴォルティスは、四国初のJ1クラブとなります。J2・JFL入れ替え戦に勝ったカマタマーレ讃岐の昇格もあり、四国サッカーのさらなる活性化を期待します。

11月2日の国立競技場に46,675人もの方々にお集まりいただいた2013Jリーグヤマザキナビスコカップでは、柏レイソルが14年ぶり2度目の優勝を飾りました。今年のカマタマーレ讃岐の予選リーグからの平均入場者数は9,394人で、対前年比プラス447人となりました。柏レイソルは、AFCチャンピオンズリーグ(ACL)でも日本勢として4年ぶりの準決勝進出を果たすなど、タフな日程の中で底力を発揮しました。

来シーズンは、ピッチ上のプレーのクオリティー改善に向けて、中2日の日程を可能な限り解消する方針を決定しました。さらに、開幕から20年がたち、Jリーグがプロとして根幹の精神としたJリーグ規約第42条のいわゆるベストメンバー規定も、各クラブの成熟とともに浸透したことを大前提に、改定することも決定しました。プレーのクオリティー向上、特にACL出場クラブのアジアタイトル獲得という目に見える成果につながるよう大いに期待しています。

【成長戦略】

20周年という節目を迎え、経済状況やサッカーマーケットのグローバル化といった環境の変化に対応すべく、将来のJリーグの成長戦略について、シーズン移行や大会方式の見直しを中心に議論を重ねました。

その結果、2015シーズンから、J1リーグ戦の大会方式を、2ステージ制リーグ戦および、スーパーステージとチャンピオンシップに変更することを決定しました。この大きな決断に関しては、クラブ関係者のもとより、選手会、ステークホルダー、有識者など多くの方々との意見を交わし、Jリーグの置かれた環境と将来像について、さまざまなご意見を頂戴しながらご理解を賜り、このタイミングでの改革が必要であるとの結論に達しました。Jリーグのメディア露出の機会を増大し、その価値を多くの方々へ評価していただくために、引き続き対話と周知を重ねていきたいと考えています。

【J3クラブの誕生】

J3は、来シーズンから12チームでスタートします。11クラブが新たにJリーグに入会することになり、特別参加枠としてJFA/JリーグU-22選抜チームも加わります。今シーズンJFLで戦ったカマタマーレ讃岐は、J2・JFL入れ替え戦に勝利し、JFLから一気にJ2への入会を果たしました。J3ライセンス取得を前提とする入会審査にあたっては、人事体制・組織運営基準、法務基準、財務基準といった経営体制の整備、またアカデミーやスタジアム整備などを含めた競技および施設基準を充足するための諸活動が必要となります。これに加え、地元行政等との関係づくりなど、入会への道のりは決して簡単なものではなかったはずですが、しかし、全てのクラブが、「我がホームタウンにJクラブを」との熱い思いで努力を重ねていただき、さまざまな基準をクリアして入会を果たされました。スタートラインに立った各クラブには、ぜひこれから同じ仲間として、「Jリーグ百年構想」の実現、新たなスポーツ文化の醸成に力を尽くしていただき、Jリーグが社会になくてはならない存在であり続けるために共に努力していけるよう期待しています。

【強化・アカデミー】

7月に開催されたEAFF東アジアカップ2013決勝大会では、Jクラブ所属選手だけで構成された日本代表チームが素晴らしいプレーで優勝しました。多くのJクラブ所属選手のクオリティーの高さが国際舞台であらためて証明された瞬間でした。本大会に出場した選手たちはその後、それぞれが国内でも活躍し、終盤のJリーグを盛り上げました。

10月に開催されたFIFA U-17ワールドカップUAE2013でも、Jクラブのアカデミーに所属するユース選手たちが多く活躍し、見事ベスト16まで進出しました。

Jユースカップでは、12月23日、ヴィッセル神戸U-18が1999年以来14年ぶり2度目の優勝を勝ち取りました。決勝がPK戦となったのは、2004年以来9年ぶりでしたが、サンフレッチェ広島FCユースと110分を互角に戦った末の、劇的なフィナーレでした。「ゴールに向かう気迫」、「最後まで諦めないという強い意志」を強く感じたと同時に、両チームのクオリティーの高さを証明する、決勝にふさわしい素晴らしい試合を見せてくれました。

来シーズンから始まるJ3への参加が決定したU-22選抜チームは、育成年代の強化を目的にしたものです。Jリーグは長年、若手選手の試合機会の創出が大きな課題となってきましたが、こういった取り組みを含めて、今後も日本サッカー協会と連携し、Jリーグにおける選手強化の役割を果たしていきたいと考えています。

【アジア戦略】

昨年2月のタイ・プレミアリーグとの提携を皮切りに、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、シンガポールのリーグとの提携が実現しました。今後もASEAN各国との関係強化を進めてまいります。今年は、ベトナムの英雄と呼ばれるレコンビン選手がコンサドーレ札幌に加入し、アジア進出を考える企業とともに、Jリーグの試合中継にベトナム語の看板が掲出されたり、ベトナムでJリーグに関する報道やリーグ戦の放送が多くなされるなど、大きな反響がありました。アジアサッカーの発展は、ひいてはJリーグの発展、そして日本サッカーが国際舞台で活躍する原動力になるものです。来シーズンからは、新たにJリーグの外国籍選手登録枠に提携国枠を設けることも決定しました。ASEAN各国との関係強化を推進し、各国に対しJリーグ20年のさまざまなノウハウを提供することでアジア全体のサッカーの強化・発展に貢献していけるようさらなる努力を続けていきます。

【復興支援】

2011年3月の東日本大震災から2年9カ月がたちました。私たちJリーグは、「決して忘れない」という強い決意のもと、Jリーグ、各Jクラブがそれぞれに復興支援活動を継続してきました。6月には、国立競技場で復興支援スペシャルマッチを開催し、収益や基金で、被災地沿岸部に簡易照明を寄贈するなどいたしました。

被災地の復興に向けて、特に子どもたちが元気に体を動かしスポーツを楽しめる環境を整えていけるよう、復興支援活動を継続してまいります。

来年2014年はFIFAワールドカップがブラジルで開催され、また2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催も決定いたしました。FIFAワールドカップでの日本代表の活躍を心から祈念いたします。2020年のオリンピック開催に向けては、世界中から日本に関心が高まります。日本のスポーツ文化、サッカー文化を支えるJリーグとして、現状にとどまることなくチャレンジを続け、Jリーグのさらなる価値向上にまい進してまいります。

公益社団法人日本プロサッカーリーグ
チェアマン 大東 和美